

審議会等の会議の記録

会議の名称	第2回伊勢崎市就学前教育・保育のあり方に関する基本方針 検討委員会
開催日時	平成28年3月29日(火) 午後2時～午後3時30分
開催場所	本館5階職員研修室
出席者氏名	<p>(出席委員)</p> <p>委員長 藤本宗利 副委員長 下山重之 委員 柳澤慶仁 委員 東宮啓子 委員 小泉由理江 委員 稲月沙織 委員 六本木文子 委員 亀井富子 委員 黒澤あゆみ 委員 土肥左緒理</p> <p>(欠席委員) なし</p> <p>(事務局)</p> <p>教育部長 越須賀 隆 一 教育部副部長 荻原利美 教育部総務課長 細井篤 書記 斎藤一美</p> <p>(関係課職員)</p> <p>学校教育課長 藤塚博幸 こども保育課長 須永佳正 保育係長 内田 勇 指導係 梅堀ひろえ</p>
傍聴人数	0名
会議の議題	<p>(1) 「就園状況・就園ニーズ等に関する保護者アンケート」について</p> <p>(2) 現状の把握、提案の集約について</p>

	<p>①幼稚園と保育所の連携 ②幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続 ③公立幼稚園の役割又は行政の支援</p>
<p>会議資料の内容</p>	<p>・就園状況・就園ニーズ等に関する保護者アンケート（案）</p>
<p>会議における議事の経過及び発言の要旨</p>	<p>——— 開会 ——— 教育部総務課長から開会宣言があった。</p> <p>——— あいさつ ——— 委員長から挨拶があった。</p> <p>——— （１）「就園状況・就園ニーズ等に関する保護者アンケート」について ———</p> <p>《委員長》 （１）「就園状況・就園ニーズ等に関する保護者アンケート」について、アンケート案が配付されていますので、説明をお願いします。</p> <p>《教育部総務課長》 この会議の前にお配りし、意見をいただいた後に本日の会議に提出する予定でしたが、業務の関係で間に合わず、本日、初めてお配りするものでございます。お詫び申し上げます。 初めに１、２ページは、アンケートの導入部分で就園状況、就園ニーズ等に関する保護者アンケートで、対象は０、１、２歳児の保護者を無作為に抽出して、２、０００人の方からアンケートをいただくということでございます。 小学校の一学年は基礎学年２、０００人ほどおりますので、３学年ですと約６、０００人のうち２、０００人の方にアンケートを配ることができると考えております。回収率は、一般的に約４割ということですので、８００人以上帰ってくることを期待したいと思います。 アンケートの内容は、就園の状況、今後の就園ニーズ、今後の公立幼稚園のあり方についての設問です。 ２ページでは、前回、委員から提案のありました公立幼稚園の現状ということで、月額保育料が段階的に値上げされていく状況と、減少傾向を示す表をつけさせていただきました。 ３ページでは、アンケートの対象者の属性を問うものでございます。１番が性別、２番が年齢、３番が家族構成で世帯を問うものでございます。４番が職業、５番が居住地区、６番が居住年数、７番がお子さんの年齢で、複数いる場合は年長者についてお答えいただきます。 ４ページは、お子さんの就園状況で、既に保育所等に預けている場合の設問です。初めに、幼稚園や保育所等に通っているかで、通っていない場合は、次の設問に進んでいただきます。通っている場合には２番目として、施設を選択していただきます。３番は通っている施設の所在地を問うものでございます。４番は通園方法を問い、５番は施設を選んだ理由を問うもので、複数回答</p>

として3つ選んでいただきます。アからシまで選択肢を設けました。アは自宅から近い。イは勤務先から近い。ウは経済的な負担が少ない。エは長時間預かってもらえる。オは通園バスがある。カは給食がある。キは知り合いなどが既に通っている。クは保育や教育の評判がよいとか、私学における建学の精神に共感している。ケとして挨拶や食事の仕方、衣服の着脱など基本的な生活習慣を身につけてくれる。コは年齢に合った遊びや生活を通して社会性や協調性を身につけてくれる。サは子供一人一人を大切に、学ぶ力を引き出し伸ばす教育・保育を行っている。シとして園舎や園庭がよく整備されていて、施設・設備が充実しているという選択肢を設けました。

5ページは、2のところでお子さんが施設に通っていない方にお答えいただき、1番は何歳になったら幼稚園や保育園に通わせたいかお答えいただきます。2番は通わせたい施設についての選択です。3番は通わせたい地区を問うものです。4番は大きい設問の2の5番と同じ選択肢で、幼稚園や保育園に通わせる場合に重視する点を、3つまでの複数回答でお答えいただきます。

6ページは、公立幼稚園の在り方で、平成27年度に公立幼稚園については子ども・子育て支援新制度に移行し、保育料も段階的に上がっていく中で、教育委員会としては3年保育の実施を検討しているため、今後の公立幼稚園の在り方についての考えを聞いております。1番目は公立幼稚園が3年保育を実施することについてのお考え。2番目は3年保育を始めた場合、お子さんを通わせたいかという問い。3番目は公立幼稚園に期待することや役割をどのように考えているかという問いで、3つまでの複数回答です。アとして遊びを通した伸び伸びした教育を実践し、学びの芽生えを促すとともに、友だちと仲良くできる社会性を身につけさせてくれる。イとして教職員による今後の幼児教育の在り方に関する研修成果を生かし、特色ある教育や保育を試行的に実践して、その成果を私立幼稚園及び保育所等に情報発信する。ウとして園舎や園庭等の施設・設備がよく整備され、年齢構成を考慮した教職員が配置されている。エとして未就園児の保護者が、子育てや子どもの成長に関して気軽に相談できる体制を整える。オとして未就園児及びその保護者が気軽に集い、情報交換できる交流の場を設ける。カとして障害を持つ子供など、特別な支援を要する子供たちを受け入れ、きめ細かに対応していく特別支援教育の拠点となる施設。キとして、本市の特徴ではありますが、日本語のわからない外国籍の子供を受け入れ、日本語の習得を初め、生活様式等を身につけさせてくれるよう支援する拠点施設という選択肢を設けました。4番として公立幼稚園は10園ありますが、今後の公立幼稚園の在り方ということで4つの選択肢を設けました。アとして公立幼稚園は現状のままの10園を維持、運営する。イとして公立幼稚園の一部を認定こども園に移行する。ウとして公立幼稚園を就園ニーズ等に応じて統合し、適正規模を保ち適正配置を図る。エとして公立幼稚園の一部について、私立幼稚園又は民間業者に運営を委託するという在り方や方向性を入れさせていただきました。

最後の7ページにつきましては自由意見として公立・私立を問わず、幼稚園や保育所等に対する御意見、御要望がありましたら、御自由に記入いただくものです。

アンケートの内容については以上です。よろしくお願ひいたします。

《委員長》

お気づきの点や、御意見等がございましたらお願ひいたします。

《委員》

まず、4、5、6ページに関係しますが、4ページでは5番の複数回答で3つを選ぶのですが、3つの根拠や理由をお願ひします。もっとたくさんの理由がある場合もあると思うのですが。

《教育部総務課長》

3つに限定した深い意味はないのですが、数を区切ったのは重要性の高いものが見えてくるのではないかということです。議論いただいで見直すのであれば、そのようにしても構わないと思います。

《委員》

4ページについては、現在通われている方への設問で、5ページは今後就園を考えられている方へということで、5ページは2番の注意書きで認定こども園の説明が加えられているのですが、4ページでは既に通われているので説明がないということでしょうか。

《教育部総務課長》

御指摘のとおりです。

《委員》

6ページの3番で、開会前に他の委員とも話をさせていただいたのですが、イの「教職員による今後の幼児教育の在り方に関する研修成果を生かし、特色ある教育や保育を試行的に実践して、その成果を私立幼稚園及び保育所等に情報発信する」という内容はわかるのですが、誤解を招くというか、私立幼稚園や保育園は公立幼稚園のやり方を真似てというように受け取られかねないので、もう少し適切な表現がないかということです。

それから4番で、「公立幼稚園は10園ありますが、今後の公立幼稚園はどうあるべきとお考えですか」ということで、少し乱暴な気がします。なぜ、これを聞きたいのか、これを答える方に関してはこういう理由でこのように考えているのですかという投げかけのほうが良いと思います。例えば上のほうでは書いてあるのですが、段階的に値上げされることや3年保育を検討しているというのはわかるのですが、表がついているだけで、園児数の減少など触れられていないのでどうかと思います。減少しているので、今後どうしていくべきかというのもあったほうが良いと思ったものですから。

《教育部総務課長》

初めに、3番のイの選択肢ですが、「その成果」以降を切ってしまうことでしょうか。

《委員長》

例えば「私立幼稚園及び保育所等」を切ることも考えられます。「その成果を情報発信する」ということで、情報発信の役目は必ず持っているわけですから、真ん中だけを切るということもできると思います。例えば「その成果を外部に向けて情報発信する」はいかがでしょうか。

私が思うには、対象を私立幼稚園、保育所に絞る必要性は全くないと思っています。幼児教育に興味のある方に向けて発信していく、専門的に幼児教育を学んでいる方が、研修発表の場に行くというシステムでも構わない。幼児教育を専攻している学生が聞きにいても構わないのではないかと思いますので、対象を限定するのはどうかと思います。そもそも、このイの選択肢ですが、一般保護者に向けて聞いて意味があるのでしょうか。これを選んで通わせる保護者の方は相当な方です。

《教育部総務課長》

選択肢は結構悩んでつくりました。何かをつくらなければならないので、いろいろ探した結果こうなりました。一般の保護者向けでないことは確かですね。

《委員長》

教職員が情報等を学べそうな雰囲気だからとか、そのような表現なら何とか。ほかのところは保護者の方でも興味関心があり、着眼点が絞られている気がするのですが、イはちょっと玄人受けし過ぎると思ひまして。

[「多分意味がわからない」と呼ぶ者あり]

《教育部総務課長》

例えばですが、イとして、「教職員による今後の幼児教育の在り方に関する研修を生かし、」を削除して、「教職員による特色ある教育や保育を試行的に実践し、」としたほうがいいのでは。これは御提案ですが。

《委員》

正直な話、私も立場的なものがあるが、私だけでなく他の私立幼稚園や保育園のことを考えると、当然私立幼稚園も研修をしていて、さまざまな学びを職員がしていたり、研修に出かけたりして、それを園に伝えるだけでなく、協会として群馬県や関東地区等で発表等もしているのです。当然公立の幼稚園の研修にも参加させていただいているので、やはりそこで公立幼稚園の教育というものが先行しているというよりは、情報共有をしてというニュアンスならわかるのですが、先ほど話をしたのですが、これでは追随になってしまうということなので、ただそこまでのものを保護者が見ているのか、求めているのかはちょっと疑問です。

《教育部総務課長》

「実践し」というところで止めておくのがいいでしょうか。「情報発信する」というところは削除してしまっ。

《委員長》

玄人受けを狙い過ぎですかね。なくしてしまってもいいのですかね。どうですか。

《教育部総務課長》

「その成果を関係機関と共有する」とか。

《委員長》

要するに、イメージ的に幼児教育の在り方をめぐって、もっと研究してほしいこと、期待することや役割ということなので、そのようなことを打ち出せれば、そしてもっとやわらかい表現にできればと思うのですが。

《委員》

削除する選択肢はないのかと思いますし、また、「特色ある教育や保育を試行的に実践し」という表現が、今の公立幼稚園の状況ですと、「保育」は要らなくなりますし、認定こども園まで膨らませたいという意図も見えなくもないのかなと思います。

《教育部総務課長》

教育に限って問題はないと思います。「特色ある教育を試行的に実践し」という表現にします。前段の部分は「幼児教育を研究する」ということを初めに言う形にします。

《委員長》

例えば、「今後の幼児教育の在り方に関して、教職員による研修や実践が行われる」というような表現はどうでしょうか。「試行的」をつけて、「試行的実践が行われる」でもいいと思います。

「今後の」を「将来の」「理想的」、どんどん膨らんでしまいますね。要するに公立幼稚園の機能として、教職員の研修を保護者の方が認識しているかを聞きたいということだと思っております。だから、これを選んでくれる人がいなくても仕方ないですね。認識されていないということですね。

《教育部総務課長》

もちろんです。

《委員長》

そこについても、ほかの部分についてもよろしいかと思うのですが。

《教育部総務課長》

園児数が減少しているということなのですが、大きい4番の上のリードに入れることでよろしいでしょうか。

《委員》

入れやすいところでよろしいと思います。検討しているということがわかればいいと思います。

《委員長》

細かい話なのですが、国語科的には、4ページの5番の選択肢のケとコで、「生活習慣を身につけてくれる」、「協調性を身につけてくれる」ということですが、身につけるのは子供なので、身につけさせてくれるが適切と思います。

同じ内容で5ページ、6ページも同様です。

それから、6ページの2番ですが、選択肢のアは「通わせたい」なので、イは当然、「通わせたくない」になると思います。

《委員》

6ページの3のアです。「遊びを通じた伸び伸びした教育」でなく、「遊びを通して」のほうがわかりやすいと思います。

それから、エですが、「未就園児の保護者が子育てや成長に」とありますが、子育ての中に含まれるかもしれませんが、「成長」を入れるとすると、「子育てや子供の成長に関して」という文言が入るといいと思います。

《委員長》

「子供の」を入れて、「通じた」ではなく「通して」のほうが美しいですね。

《委員》

2ページに公立幼稚園の現状の資料をつけていただいたのですが、ここに、前回の資料にあったような他市の状況を入れることはできますか。

《教育部総務課長》

県内他市の状況は、固有名詞でなく園数や定数などであれば可能です。

《委員長》

単純な質問ですが、4ページの就園状況について、通っているか、いないかですが、伊勢崎市では体験入園のようなものはないのですか。桐生市では未就園児を対象に体験入園の仕組みがあるのですが。

《委員》

1年に約10日実施しています。

《委員長》

そうすると、あえて聞かなくてもいいのですかね。桐生市では毎週曜日が決まっていて園児と一緒に遊んでもらいます。

《委員》

種類は違うかもしれませんが、10回は各園で実施していて、あとは各園の状況で曜日を決めて実施しているところもあります。

《委員長》

大体よろしいでしょうか。いつごろまで変更は可能でしょうか。

《教育部総務課長》

4月15日の金曜日までなら可能です。

《委員長》

微調整も可能ですので、お気づきの点があれば、お願いします。

義務教育の観点からは大丈夫でしょうか。

《副委員長》

大丈夫です。

《委員》

市内に公立の保育所は5カ所しかないので、表記は保育園等のほうがいいと思います。

《委員長》

微妙な言葉遣いがありますので、ぜひ、保護者の観点からの意見を忌憚なくいただければと思います。後で気がついたら言っていただいてもいいです。

行政言葉なので仕方がないのですが、全体的に硬い印象があります。お答えいただくのは若い母親が多いので、もう少しやわらかい文章にしたほうがいいと思います。読むことを嫌われてしまっ

てはいけないと思います。変更は4月15日までということですので、お気づきの点があればお願いします。

それでは(2)に進めます。

——— (2) 現状の把握、提案の集約について ———

《委員長》

①幼稚園と保育所の連携について、要望、提案、考えや御意見をいただきたいと思います。

《教育部総務課長》

現場の率直な御意見等をお話ししていただいて、まとめていただければと思います。

《委員長》

例えば子供、保育士と教員の連携で実施してほしいことなどいかがでしょうか。

《委員》

他園のことはわからないので、自分の園のことになりますが、近所に保育園があり、姉妹園になっております。最近では3月上旬に、恒例となっておりますドッジボール大会を一緒に行いました。同じ小学校に通われるお子さんもいますので、園児の交流を図り、他の行事に関しても保育園と情報交換を行っております。

ただ、場所が限定されてしまうので、その輪を広げられればい

と思います。各園の行事もあって難しい面もありますが、小学校へのスムーズな就学の面からも、他の園との交流はいいことだと思っています。

《委員長》

職員と保育士との交流ということでしょうか。

《委員》

情報交流というか情報交換くらいのもので。どうしても保育園は早番、遅番などがあり、時間を取るのが難しいです。

幼稚園は、夏休み期間などを利用して研修に出かけることができます。幼稚園は新任の研修もして質の向上を図るのですが、保育園は難しいのです。園長は私の弟ですので、研修してきたことを文書的なもので情報を流したり、いただいたりして、現場に流しています。また、普段保育士と幼稚園の職員は会っているので、多少なりとも交流していますが、なかなか業務の性質上、保育園は厳しいところがあると思います。

《委員長》

保育園では研修の時間の限定は大変ですよ。

《委員》

研修は1人程度の参加で、全員そろっての職員会議は年に1回程度です。

その代わりに、伝達方法を考えて、全体の伝達ノート、クラスごとの伝達ノートで、早番、遅番に情報を漏れなく伝えています。保護者にも情報が正確に伝わるようにしています。そういうことには時間をかけて、研修に行った場合も、全てコピーして配布したり、庁内ランで回したりしています。

本日も子供を預かっていますし、卒園児も3月31日まで通う子供もいます。ちょっと厳しいですね。

《委員長》

幼稚園との連携を図るとするのは難しい状態でしょうか。

《委員》

地域性があって、むしろ小学校や私立保育園とは関係があるので、地域の行事に参加することもあり、そのところは他の地域と違うところです。

1つの施設から複数の小学校へ入学するところは、保護者のことを考えるとどこを選ぶのかも難しいですよ。

《委員》

保育園は送迎の時間がいろいろなので、保護者と関わる機会が少なく、子供の顔はわかるけれども、保護者の顔がわからないのです。小学校に行っても全くわからないのです。保育園で保護者の交流会などがあればと思います。

《委員長》

それは、大きいですね。附属幼稚園は頻繁にありました。

でも、具体的な話で恐縮ですが、交流の機会を設定するとなると、休日などにお子さんと一緒に遊ぶような機会ということでしょうか。

《委員》

知っている事例ですが、年度末などに慰労会を行うなどです。

《委員長》

保育園と幼稚園で何かできるようなことはありますでしょうか。

《委員》

以前に勤務していた幼稚園では、近くの保育園に行って一緒に遊ぶ機会を設けたのですが、距離が遠いので難しい部分がありました。同じ地域の保育園の先生方と顔馴染みになるということが可能であれば、入学するに当たり、同じ地域で話ができるといいとは思いますが、お互いに時間的に難しい部分があるので、工夫ができるいいと思います。

《委員長》

小学校で一緒に学ぶ親子が集まれるようなシステムがあったら、もっと交流が図れていいかと思いますが。

《委員》

子供も安心して就学でき、保護者同士が知り合いたと心強いですよ。

《委員長》

行政がうまく仕掛けをつくれればできそうな気がします。無責任な言い方かもしれませんが。

《委員》

もし、保育園が忙しいのであれば、小学校には育成会があるので、そちらで何かイベントを企画していただければと思います。地区となると、近所の方や、同じ学区内の交流が大切で、今は集団通学ができないのですが、初めて就学を迎える保護者の友人がいて、やはり不安なのです。豊受地区はそういう行事が充実しているの、そういうものがほかでもあれば参加しやすいのかなと思います。保育園や幼稚園の行事がたくさんあって苦勞されるのであれば、そういう方法もあるかと思いますが。うちの子供も楽しく育成会に参加しています。

《委員長》

地域の連携は大切なことです。

《委員》

小学校では、最初は同じ幼稚園や保育園の子供同士で固まっているのですが、徐々に地域の育成会に参加している仲間と仲よくなっていきます。同じ幼稚園や保育園の子供と仲がよいのは低学年のころなので、地区の交流が大事になってくると思います。

《委員長》

普段から付き合っていると、見守っていただけますね。
よろしいでしょうか。次に進みます。

②の幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続ということで、
幼小連携の観点から御意見をいただければと思います。

《副委員長》

前回の会議の際に、引継ぎの伝達がうまくいっていないということでしたが、私のほうから小学校の校長には全て連絡しました。大事に取り扱い、学級編制の際には、注意を払うように伝えました。こういう機会があったので、いただいた意見ですので、ちょっと注意が足りない学校があったかと思いますが、今年は大丈夫だと思います。

子供を育てるのは親と教員で、親を育てるのは難しいのですが、公立の場合は幼小中まで含めて、宮郷地区では合同研修会を行い、生徒指導、不登校、学力向上などを検討しております。

夏休みなどでは、保育園は難しいようですが、そういうところで一緒にやるのもいいと思います。

《委員長》

公立、私立の垣根を取って、自由に参加していただくということは、非常にいいことですね。

最近、附属幼稚園で実施している交換研究会も、私立の保育園等から参加者も増えています。意見交換をするとお互いに気づくこともあるので、充実していると聞いております。そういう機会はいかがでしょうか。

《委員》

そういう機会はありがたいと思います。

以前、何回か豊受地区でも実施しているのですが、連携や接続の部分までは踏み込めていないことがあり、子供の学びの連続性ということをもう少し集団で、幼稚園、保育園から小学校、小学校から中学校という連続性を念頭において研修できる機会があるとありがたいと思います。

私どもでは、幼稚園、保育園から小学校に就学させる、送り出すという立場ですので、うまく学校に馴染めるかという心配を抱えている部分もありますので、小学校が何を求めているのか、こちらがしてもらいたいことがうまく情報交換なり、意思疎通ができていれば、もう少し子供たち一人一人をスムーズに就学させることができると思います。一般的に言われている小1プロブレムとか、中学校に上がる時の教科担任制の変更にうまく馴染めないということもあるので、何か知恵を絞っていく必要があると思います。

前回の会議の際に、委員長からありがたい発言をいただきましたが、小学校の先生に幼児教育を理解していただく機会を持っていただくと、我々も情報を提供できますし、いいのかなと思います。子供に対して学びの体制が大きく変わるので、やはり馴染めない子供を少なくするためには、そういうことも必要だと思います。

《委員長》

小学校の教員免許を取る学生には、よく言っているのですが、幼稚園の実習をしなくても免許が取れてしまい、幼稚園の実態を知らないで小学校の先生になり、1年生の担任をする場合、40分の授業をしようとしても、4月では無理に決まっているわけです。そういうところからも、情報交換をして、幼稚園でやっていることを理解してもらって、そのまま生かしてもらいたいのですが、なかなか理解されず歯がゆいです。

《委員》

地区でも話をさせていただいているのですが、小学校の明かりが9時、10時までついている状況を見ると、幼稚園も保育園もそうですが、激務と思い、強く言いづらい部分もあります。

《委員長》

でも、本当に幼稚園や保育園でやってきたことを、小学校が理解しないで、小学校のやり方を押しつけるような連携を言われると、すごく問題があると思います。

《副委員長》

総括するとそういうことになってしまうかもしれませんが、小学校の先生も全く理解していないわけでもなくて、発達障害や支援が必要な子供もたくさんいるので、一人一人の子供に合った支援をするというのは教育の原点なので、小学校1年生はいろいろな子供がいて当然で、座れる子供もいるし、座れない子供もいるし、座ることを強要するのではなく、発達段階を見極めて、少しでも座れるようになることから始めるので、皆さんが心配するようなことはないと思います。

《委員》

文科省からスタートカリキュラムが出ていて、大分幼児教育に対して小学校の先生も向いてくれていると思うのと、公立幼稚園では地域の小中学校に保育を見ていただく機会を教育委員会をつくってもらっています。そうすると見方を変えてくれる人もいるし、交流も深まり子供の理解をしてくれて、私どもも小学校を見なくてはいけないと思っています。

幼稚園でこれをやればつながるということではなく、小学校ではどのような教育内容になっているのかを知らなければいけないと思います。そのとおりにするわけではないけれども、そういう部分の研修も進めないといけないと思います。

《委員長》

幼稚園の場合、子供が興味を持つか持たないかを別にして、仕掛けをつくっておいてという形で実施しているわけで、私もよく幼稚園の教員の研修会に出向くことがあり、壁面構成を例に挙げて、小学校の伝統的言語文化にいかにつながっていくかということ、教科書や教材を提示しながらお話しすると自覚していただき、そうすると、先生方が実施していることが小学校につながっていくという考えが生じる。それも大事な連携と思っています。

お互いの情報交換が密に図られるところが一番期待される場所です。

いずれにしても、機会、場所、時間を設定することが必要になり、行政の支援が必要になってきますので、③の公立幼稚園の役割という項目ですが、行政の支援ということで、要望を出すことでよろしいのかと思います。できるかできないかは別です。

《委員》

前回も意見として出ていましたが、やはり幼稚園は研修に割ける時間があるので、アンケートの6ページに公立幼稚園に期待されることとして上がっているように、障害を持つお子さんや、外国籍のお子さんとか、私立の園では対応し切れない部分に特化した支援を公立でしていただけるとありがたいです。

《委員長》

例えば、園が行っている支援の案内を、私立保育園、幼稚園でしていただけるような情報があるといいですね。

《委員》

程度はありますが、支援が必要なお子さんに特化した施設、小学校では特別支援学校がありますが、未就学の子供に対しての施設がないので、お子さんも保護者も安心して通わせられるセンター的なものがあるといいです。

それは私立では手に負えない部分があるので、公立で実施していただくと、お子さんや保護者の方にはいいのかなと思います。

行政の支援については、伊勢崎市の場合はアンケートにありますように、利用者の負担額ですが、子ども・子育て会議に関わっておりまして、負担額の設定のときは、ありがたいことに伊勢崎市は県内で最初に出していただいたので、保護者にお知らせする時間がありました。他市町村ですと、ぎりぎりに決まったところもあるのですが、担当の方が努力してくださり、本当に早くてよかったのですが、これは幼稚園に通う一般的に1号認定こどもの利用者負担額のこと、2号、3号に関しては伊勢崎市では県内でも利用者負担額が低く、伊勢崎市に住んで保育園や認定こども園に通われているお子さんをお持ちの保護者の方に関しては非常に恵まれていると思っております。

ただ、1号に関しては県内の市町村と比べると標準くらいなのですが、2号と比べた場合の比率が県内でも3番目くらい高いのです。これはアンケート調査を行った人には書いてもらいたいと思うのですが、利用者負担額を少しでも軽減していただくと、保護者にとってはいいと思いますし、ありがたいことだと思います。今ほかのところでも言われていますが、幼児教育の無償化ということも出てくると思うのですが、市としていち早く取り入れていただくと、対外的な面でも、子育てが手厚いということアピールできると思うので、それこそ子育てにやさしい伊勢崎市ではないですが、利用者にも資することだし、子供に対しても質の高い教育を受けるのに、経済的な負担が少なくて済むので、今後検討していただければと思っています。

《委員長》

保護者の方々は共感されると思いますが、ほかに実現できるかどうかは別にして、いろいろ御要望いただければと思います。先ほど公立の役目ということで研修に時間を割ける立場という話もありましたがいかがでしょうか。

《委員》

研修に取り組むのは義務として考えており、研修だけでなく日々の保育のための準備も研修と捉えて、教材研究をしながら時間を費やしています。職員一人一人の力を伸ばしていくことが子供を伸ばすことにつながっていますので、積極的に取り組める時間をつくろうとしております。

《委員長》

うちの大学も連携させていただいて、理想的なものを探していくところに一枚かめるかなと思いますので、群馬大学及び附属幼稚園を仲間に入れていただければと思います。

《委員》

附属幼稚園の研修会には、必ず職員を参加させております。公立幼稚園としてもそうなのですが、地域の子供、伊勢崎市の子供を皆で育てていくというスタンスでいければと思います。公立、私立、幼稚園、保育園に関わらず、子供たち一人一人を伸ばせばいいのではないかと考えております。

《委員長》

私は少しだけ附属幼稚園に関係していたので、すごく自分の中で大事にしていることは、保護者の理解をどのように育てていくかということで、最近子供を手にかけるということがあり、悲劇が起こらないための親育てを今後考えないといけないと思います。子供は大切なので、きちんと育てていくことの重要性を保護者に向けて発信したいと思っているのですが、幼稚園や保育園が大きく関われば理想的で、伊勢崎市でできたら素晴らしいのではないかと教育長とお話しました。

今後、この委員会がどのように発展していくのか。できれば保護者への勉強会も含めて子育てを考えていければいいと思っているのですが、よい知恵を出していただいて、よい子供を育てる伊勢崎市にしていきたいと考えております。

——— その他 ———

《教育部総務課長》

年度が変わりますので、委員の変更がある場合は総務課まで御連絡願います。

次に、次回の会議は4月にアンケートを実施して、集計等もありますので5月末、6月になるかもしれません。検討していただきたいことがありましたら、随時、開催することもありますので、本日の時点で日程調整はできませんが、そのときは前もって通知させていただきますので、よろしく願いいたします。

午後3時30分

	<p>—— 閉会宣言 ——</p> <p>以上により閉会する旨の宣言が司会からあった。</p>
--	---